



熱い!

が 聖地に大集結!

第13回隼駅まつりが隼駅と船岡竹林公園で8月20日(日)に開催され、全国各地からバイク2,300台、2,600人が集結しました。4年ぶりに熱い夏の開催となりましたが、ライダーは残暑にも負けず、仲間たちと待ちに待った再会を喜んでいました。

一日駅長がお迎え

この日、若桜鉄道では隼ラッピング列車が終日運行。隼駅では早朝から駅舎を背景に愛車と記念撮影をするライダーが列を作りました。また、本物のハヤブサ(鳥)「ヤズちゃん」が一日駅長を務め、鋭い瞳でもてなしました。

全国各地から聖地隼へ

ライダーボランティアの皆さんの誘導のもと、メイン会場の船岡竹林公園には、開場を待ちかねたバイクが続々と到着。来場記念の「オリジナルステップホルダー」が配布されました。

スズキブースでは、7月に発表された25周年特別仕様モデルの「隼」が展示されたほか、当日限定のオリジナルTシャツやキャップが販売され、グッズを買い求めるライダーで長蛇の列となりました。

開会式では、スズキ(株)鈴木俊宏代表取締役社長から、台風7号による被害のお見舞いと早期復興の祈願が伝えられた後、「皆さん、アツイ隼へお帰りなさい!」と力強い挨拶がありました。





4年ぶりの夏開催

第13回

隼 駅まつり

2300台、2600人



（株）スズキ二輪のご厚意により会場で募金いただいた「令和5年8月台風7号による災害支援金（八頭町）」が、スズキ株鈴木俊宏社長から吉田町長に手渡されました。皆さんの温かいご支援ありがとうございました。

災害支援金のお礼とご報告

来年の再会を約束して、第13回隼駅まつりは閉会。鈴木社長をはじめスズキ社員と吉田英人町長が手を振り、声をかけながら、帰路につくライダーを見送りました。

また、地元隼地区有志の「隼OND」が『隼音頭』を披露し、やわらかな舞に会場は癒されました。恒例の「遠くから来たもんだ賞」では、北は北海道、南はなんと台湾からお越しの来場者が受賞。抽選会、じゃんけん大会と続き、豪華賞品が贈られました。

ステージイベントの隼バイク設計陣によるトークショーには、人気モトブロガーで隼乗りのRurikoさんがMCとして登場。来場者は3代目「隼」の開発秘話など、ここでしか聞けない貴重な話を楽しみました。

